

高知県・南海中学校長 どの

突然ですが、ごあいさつ申し上げます。

私は元・国鉄宇高連絡船に勤務していた萩原幹生と申します。

間もなく83歳になりますが、このたび高松市の有志でつくる「昭和わたしの証言」の編集委員から「紫雲丸事故」について原稿依頼があり投稿致しました。

「昭和の証言」で紫雲丸事故をはずす訳にはいかない、ということでした。

先日、その本が出版されましたので、一冊ですが寄贈させて頂きたく存じます。

この事故は申すまでもなく、昭和30年5月に宇高連絡船どうしが衝突した大事故でした。

私は直接、事故にはかかわってないのですが、商船大学時代から大きな関心があつて、過去に「紫雲丸はなぜ沈んだか」と題して本を出版したことがありました。(一冊寄贈していたかもしれません)

この本「昭和わたしの証言」と「紫雲丸はなぜ沈んだか」の二冊をお送り申し上げます。

事故からはや65年もの月日が流れていますが、この事故だけは海の重大事故だけに風化させたくなく、また今では事故関係者もほとんどの人が他界されていて、今後この事故についてこれ以上に詳しく記述出来る方は出ないのではとも思っております。

事故を引き起こした国鉄側の社員の一人が書いたものですから、偏見して受け取られる箇所もあるかもしれませんが、真実探求に一生懸命調査したことだけはお知りおき頂きたくお願い申し上げます。

なお、修学旅行をされていた他の3校(島根県・川津小、広島県・木江南小、愛媛県・庄内小)にも同様に送らせて頂いております。

どうか図書室の片隅にでも置いて頂けるならば幸いです。

萩原幹生 拝